

スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド
愛称:ベスト・アルファ

マンスリーレポート
基準日 2020年12月30日

【運用実績】

過去のパフォーマンス(%)	直近の分配実績(円)	
	ファンド	TOPIX配当込
過去1ヵ月間	1.29	2.97
過去3ヵ月間	6.08	11.19
過去6ヵ月間	12.00	16.94
過去1年間	9.15	7.39
過去3年間	15.04	6.58
設定来	177.23	129.85
		設定来累計
		1,300

※決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは、分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

【ロング・ショート別構成】

	比率(%)	銘柄数
ロング	60.1	34
ショート	-30.9	47
ネット	29.2	-
グロス	91.0	-

※ 比率は対純資産総額
※ ネットはロングとショートの差引、グロスはロングとショートの合計です。

【市場別構成(ロング)】

市場	比率(%)
東証1部	45.7
東証2部	0.0
東証マザーズ	11.0
ジャスダック	3.4
その他市場	0.0

※比率は対純資産総額

【業種別構成(ロング)】

業種	比率(%)
サービス業	9.8
情報・通信業	8.1
機械	7.8
電気機器	7.0
医薬品	4.8
その他	22.6

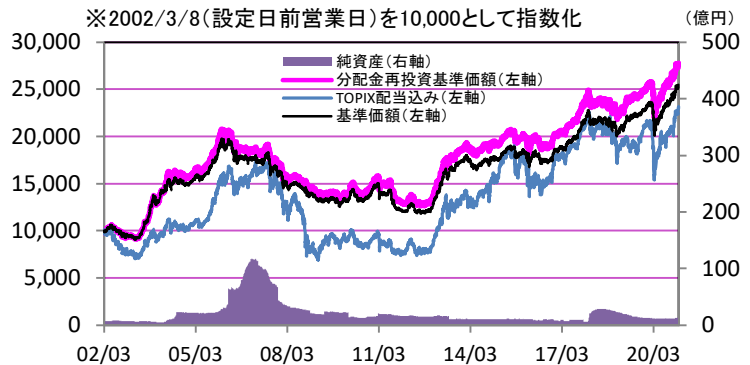
※比率は対純資産総額

【基準価額・純資産総額の推移】

基準価額	解約価額	純資産総額
25,439 円	25,363 円	13.78 億円

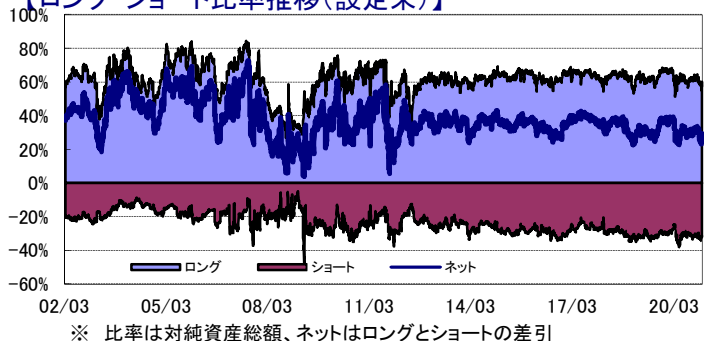
ハイ・ウォーター・マーク 23,374 円

※ 基準価額がハイ・ウォーター・マークを超えると実績報酬が発生します。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
※ 当該ハイ・ウォーター・マークは、当ファンドの毎計算期間末(毎年3月10日、休日の場合は翌営業日)および毎計算期間の最初の6ヵ月終了日に更新される場合があります。詳しくは委託会社にお問い合わせください。



※2002/3/8(設定日前営業日)を10,000として指数化
※基準価額は信託報酬・実績報酬等控除後です。
※分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものとして計算しております。
※当ファンドはTOPIX(配当込み)をベンチマークとするものではありません。
※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【ロング・ショート比率推移(設定来)】



※ 比率は対純資産総額、ネットはロングとショートの差引

【組入有望証券上位10銘柄(ロング)】

順位	銘柄	業種	比率(%)
1	ギフト	小売業	4.0
2	SUMCO	金属製品	3.8
3	SMC	機械	3.2
4	村田製作所	電気機器	3.2
5	UTグループ	サービス業	3.1
6	DMG森精機	機械	3.0
7	日揮ホールディングス	建設業	3.0
8	ペプチドリーム	医薬品	3.0
9	アンビスホールディングス	サービス業	2.8
10	オロ	情報・通信業	2.4

※比率は対純資産総額

※ 上記記載のうち、【運用実績】、【基準価額・純資産総額の推移】以外は当ファンドが投資するマザーファンドに関する情報です。

※ 「比率(%)」は、当ファンドが投資するマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等については当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド
愛称:ベスト・アルファマンスリーレポート
基準日 2020年12月30日

ファンド・マネージャーのコメント

【市況状況】

2020年12月、日本株式市場の代表指数であるTOPIX（配当込み）は前月末比2.97%の上昇となりました。

当月の日本株式市場は、新型コロナウイルスワクチン投与への期待感や、日米両国の追加経済対策への期待感から上昇して始まりました。その後、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加や英国における変異種の流行が株価上昇の重石となりましたが、英国とEU（欧州連合）の通商協定合意やEUにおける追加金融緩和の決定、米国における金融緩和の継続などにより、経済の見通しに対する先行き懸念が後退したことから、月末にかけて再び上昇し当月を終えました。

【運用状況】

12月の当ファンドは、レノバ、Fast Fitness Japanなどが上昇し、パフォーマンスに対してプラスに貢献しました。レノバは、菅首相が国連開催の気候野心サミットで改めて2050年の温室効果ガス排出量ネットゼロを宣言したことで、再生可能エネルギー領域を専業とする国内で数少ない企業である同社に対する期待が高まり、株価が上昇しました。Fast Fitness Japanは、2020年12月に東証マザーズに上場したフィットネスジムを運営する企業です。成長性の高さや新型コロナウイルス感染拡大に対する耐性の高い事業構造が評価され、株価が上昇しました。同社に関しては後述の【運用方針】で、詳しくご紹介させていただきます。

一方、リックソフト、楽天などが下落し、パフォーマンスに対してマイナスに影響しました。

リックソフトは、前月に続いて事業環境の悪化による成長率の低下を懸念して、株価が下落しました。楽天は、(株)NTTドコモがメインブランドで同社サービスと同水準の低価格料金プランを発表したことで、通信サービスの新規顧客の獲得ペース鈍化懸念、顧客情報の流出が報じられたことなどにより、株価が下落しました。

経済活動が正常化に向けて動き出しつつあることを反映して、ショート投資で買戻しを行ったことでグロスポジションは低下し、ネットポジションは上昇しましたが、依然として厳しい業績環境が続いていることから当ファンドが中心的な値と考える30%を下回る水準を維持しました。

【運用方針】

日本株式市場は前月に続いて上昇し、日経平均株価は1990年8月以来30年ぶりに27,000円台を回復しました。新型コロナウイルスが再び感染拡大の兆しを見せる中での高値更新であり、これまでの株価の上昇によって先行きの見通しを楽観するのではなく、緻密な調査に基づいて投資先企業の価値を評価し「いい会社を安く買う姿勢」を徹底する方針です。

当月は、東証マザーズへの新規上場の際に組み入れた「Fast Fitness Japan」についてご紹介いたします。

同社は、「エニタイムフィットネス」のブランドでフィットネスジムをフランチャイズ展開している企業です。同業他社が用意しているプール、スタジオレッスン、ジャグジーといった設備は削ぎ落とし、マシンジムに特化し、人員効率を重視、24時間営業、低価格でのサービス提供などが同社の特徴です。

ビジネスモデルとしては、フランチャイズ展開であるため、設備投資額を抑えながら短期間で出店を加速できます。そのため、同社は2010年に設立された比較的新しい会社ですが、既に800店舗と(株)コシダカホールディングス傘下の(株)カーブスジャパンが運営するシニア女性向けの「カーブス」に次ぐ店舗数になっています。当ファンドが同社への投資を決めた理由は、「コロナ禍」で業績が厳しいフィットネスジム業界の中で、①底堅い収益を維持している、②中長期的な成長余地も大きいと考えたためです。フルラインナップ施設を自社で投資している同業他社の多くは現状赤字経営であり、顧客の年齢層が高いため需要の回復も緩慢で中長期的な成長性も乏しいため、こういったビジネスモデルでは当ファンドも投資は難しいと考えます。一方で、同社は上述のとおり、フランチャイズ展開で固定費負担が軽いこと、マシンジム特化で人との接触が少ないことに加え、顧客層が若年男性中心であることから「コロナ禍」の逆風は比較的抑えられました。最も業績が厳しかった2020年4-6月期においても営業黒字を維持したことがその証左です。成長性の点では、店舗数に拡大余地があります。(株)コシダカホールディングスが運営する「カーブス」の店舗数が2,000店舗程度であり、同社は約800店舗です。商圈の規模から想定すると、同程度の店舗数への成長を織り込むことは現段階では難しいものの中期的に1,200店舗までは射程圏であると考えています。同社の上場時の株価バリュエーションは、「コロナ禍」の先行き不透明感や同業界全体の株式市場における人気低迷を受けて非常に割安であり、短期的には新型コロナウイルス感染拡大によるネガティブなニュースが続く可能性はありますが、業績の底堅さと成長性を根拠とする株価上昇余地は魅力的であり、リスクをとって投資をするべきと判断しました。

ショート投資では、新型コロナウイルスの感染リスクが高い居酒屋業態をメインとする飲食チェーン企業数社に、重点的に投資を行っています。感染拡大によって期間損益が悪化していることに加え、過去に行った企業買収によって貸借対照表に大きく資産計上されている「のれん」資産の減損リスクが高まっていることに注目しています。特に「のれん」資産は株主資本の2倍から3倍程度に膨らんでおり、事業環境の悪化が長期化することで資産評価が見直しされる事態となれば、資本を毀損し債務超過となる恐れもあると考えます。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組み入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等については当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。